

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 9 回 相模原市簡易水道事業審議会				
事務局 (担当課)		津久井土木事務所 電話 0 4 2 - 7 8 0 - 8 2 1 0 (直通)				
開催日時		令和 4 年 8 月 5 日 (金) 午前 1 0 時 0 0 分 ~ 1 1 時 4 5 分				
開催場所		橋本公民館 小会議室				
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	7 人 (土木部長、津久井土木事務所長、他 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 土木部長あいさつ 3 委嘱状の交付 4 委員紹介 5 議 題 (1) 会長及び副会長の選出について (2) 相模原市簡易水道事業審議会について (3) 令和 2 ・ 3 年度答申事項に関する各取組状況について (4) 令和 3 年度相模原市簡易水道事業会計決算見込みについて 6 その他 7 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 土木部長あいさつ

土木部長よりあいさつを行った。

3 委嘱状の交付

事務局から委嘱の内容について説明を行った。

4 委員紹介

委員の自己紹介及び事務局の職員紹介を行った。

5 議 題

(1) 会長及び副会長の選出について

簡易水道事業審議会規則に基づき、委員の互選により荒井委員を会長に選出した。また、会長に事故があったときなどの職務を代理する副会長として、会長から松原委員が指名された。

(2) 相模原市簡易水道事業審議会について

事務局より資料について説明を行った。
事務局からの説明に対する意見等は無かった。

(3) 令和 2 ・ 3 年度答申事項に関する各取組状況について

事務局より資料について説明を行った。
事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

組織統合や組織再編というのは非常に手間がかかる。下水道部との統合については、前進があったものだと思う。組織統合による業務の効率化とはどのような内容か補足いただきたい。(伊東委員)

審議会の答申に基づくものではないが、本年 4 月に道路部と下水道部が統合し、土木部という大きな組織に変わった。部が同一のため、調整を進めやすいといったメリットがある。業務の効率化とは、基本的には組織統合による人員削減によるものである。現在、津久井土木事務所において、料金改定等、

地域に密着した業務を進めているため、そうした業務を今の組織体で進めた後に、担当課を統合することになっている。(事務局)

引続き、地域に密着した形で進めていただければと思う。(伊東委員)

30年以上前に津久井湖がアオコ被害で逼迫した状況となり、改善するには水源地域の下水道の整備が必要だという話になった。その際に、利水地域である横浜や県営水道の給水区域と、水源地域が共に手を携えて、整備に充当する水源環境保全・再生基金を設置した経過がある。水源地域の水道料金については、水源地域の水を使用している県全体で負担すべきだと考えている。相模原市もそういった認識を持って、神奈川県に対して対応を求めるとともに、上下水道一体で次のステップに踏み出していただきたい。(関戸委員)

水源地域の水を使って、多くの人が水道水のサービスを楽しんでいる。そこには水源の保全など、水源地域に暮らしている人の協力無くしてできないため、県民全体でカバーしていくべきだという議論があった。審議会の趣旨とはずれているかもしれないが、大切な考え方だと思う。(荒井会長)

水源環境保全・再生基金は当初は水源地域に特化した制度だったが、現在は下水道が整備されたため、趣旨が変わってしまっている。水源地域にはまだ水道の課題も残っている。(関戸委員)

アセットマネジメントの推進(収入の確保)について、青根地域の漏水対応に関しては、関戸委員も尽力されていると思うが、何か補足することはあるか。(荒井会長)

漏水している利用者については、漏水を自覚されている方もいたのではないかと。漏水の修繕費をどうするかは課題であったが、これまで多くの方が理解を示し、自費で修繕を行っていただいた。まだ未対応の方については、我々、青根地区の水道委員においても、宅地内漏水の危険性を伝えていきたいと思っている。(関戸委員)

漏水はそのままにしておくわけにはいけないので、地道だが大事な取組だと思う。青根地区は過去の経過から定額制となっており、漏水量が料金に反映されないため、こうした状況となっている背景がある。令和2年度の答申で

は、事業の独立採算は無理だとしても、現在の安価な料金体系を一般的な水準に近づけた上で、合理的なアセットマネジメントを進めていかななくてはならないという趣旨だった。答申は、まず、第一に、受益者負担の原則から、料金体系を従量制に統一することが必要だと、第二に市民の料金格差の解消を図るためにも県営水道の料金体系と同水準にするという内容だった。今回の審議会資料は、それを踏まえて、大口使用者のヒアリングや県営水道の動向を報告しているものだと理解している。(荒井会長)

維持管理体制の強化の取組の中で、職員の研修計画がある。日本水道協会の研修だが、日本水道協会である笹原委員において、何かコメントはあるか。(荒井会長)

補足として、事務系に関しても、会計の実務や料金徴収、未納対策など、グループディスカッションを含めた実践メニューもある。ぜひ、こうした研修にも参加いただければと思う。(笹原委員)

広域化の段階的取組については、神奈川県から情報共有するものはあるか。(荒井会長)

神奈川県水道広域化推進プランを今年度末に策定するため検討を進めている。これを組み入れる形で、令和5年度に神奈川県水道ビジョンを改定するため、神奈川県水道ビジョン検討会という有識者会議を設けて、検討を進めている。直近では、5月に検討会は開催された。県央部圏域の話については、事務局が説明したとおりとなっている。(伊東委員)

(4) 令和3年度相模原市簡易水道事業会計決算見込みについて

事務局より資料について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

決算については、当事業の特殊性から値は悪く見えてしまうが、どうしてこのような値になったかを説明していく必要があると思う。また、当事業の独立採算は難しく、一般会計からの補助金は必要であるが、どこまで事業で達成していればよいか目標のようなものを設定すべきだと思う。本日の資料の経営戦略案は料金改定の予定を踏まえたものなのか。(松原副会長)

経営戦略については、現状の値から、給水人口の減少を掛け合わせている。料金改定の内容はこれから検討していくものであるため、反映できていな

い。今後に取り組まなくてはならない事項については、「3 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要」に記載している。これらを着実に進めながら、経営戦略をローリングしていくことが必要である。料金改定の時期や内容は、神奈川県営水道の動向に注視しながら進め、具体的になった段階で経営戦略にも反映させたい。（事務局）

料金改定の正当性のためにも、目標をしっかり持つことが大切だと思う。（松原副会長）

松原副会長が指摘されていた目標を明確にすべきという点については、金額で示すのは難しいが、どういったものを目標とするか、事務局で整理し、委員の皆さんに提示して意見を伺いたいと思う。（事務局）

営業外収益のウエイトが高いことについては、青根地区の運営費用に充てていた青根簡易水道基金が枯渇したことも要因としてある。これは宮ヶ瀬ダムの道志導水路の建設の際の補償になるが、30年間を見込んでいたものが15年で枯渇してしまった。その分については、市で負担すべきではなく、県から補助を貰っていただきたいというのが地元の意見である。（関戸委員）

何かしら良い仕組みを考えていくべきだと思う。相模原市で起きている問題は、歴史的背景は異なるにしても、全国的な問題であり、こうしたことから、水道事業の広域化の流れになっている。相模原市では段階的に広域化を進めており、これまでに小規模水道組合との統合を行ったところである。統合の背景としては、これまで、小規模水道組合は自分たちで維持管理を行っていたものの、高齢化や自然災害の頻発化、激甚化によってリスクが高くなり、市によるケアが必要になってきたため、施設を物理的に結びながら、地道に整理を進めてきたところで、将来的には、地区全体的により良いシステムになるよう視野に入れているのだと思う。（荒井会長）

現在、未統合の小規模水道組合との経営統合は可能だと思うが、現状の管路等に整備を加えると莫大な経費になる地域もあると思う。市の簡易水道としてできる範囲はあると思うので、過去の歴史的背景等を踏まえて、何とか県とタイアップし、相模原市が負担を背負わずにやっていけたらと思う。（関戸委員）

経営戦略案における経営比較分析表を活用した現状分析について、令和2年度の給水原価が前年度に比べて非常に数値が高くなっている。理由の説明を入れた方がよいのではないかと。また、有収率の説明について、「本市は類似団体と比較し低い」と記載があるが、「高い」の誤りであり、修正した方がよい。(笹原委員)

修正のご指摘、ありがとうございます。(荒井会長)

令和2年度の給水原価の増加については、公営企業移行に伴い、会計に計上すべき職員数を精査したことなどが要因となっている。表現はどうすべきか検討したい。(事務局)

6 その他

7 閉会

以上

相模原市簡易水道事業審議会（第9回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 康裕	東京都立大学都市環境学部 准教授	会長	出席
2	伊東 大介	神奈川県健康医療局生活衛生部生活衛生課 副課長		出席
3	佐々木 徹	公募市民		出席
4	笹原 俊一	公益社団法人日本水道協会調査部調査課 労働係長		出席
5	関戸 正文	相模原市青根水道委員会 委員		出席
6	松原 沙織	東海大学政治経済学部 教授	副会長	出席
7	丸山 博司	相模原市藤野地区自治会連合会 監事		出席